◆ 第６回 ワークショップ　開催報告 ◆

「世界遺産登録後の鎌倉を見据えて ―― その趣と理」

アドヴァイザーとして木下直之（東京大学大学院教授）と赤川学（東京大学大学院准教授）の両先生をお迎えし、平成24年11月18日の午後に、鎌倉市役所の第４分庁舎の2階会議室で第6回ワークショップが開催されました。その内容の概略を報告します。

昨年持たれたワークショップの報告です。これまでのワークショップは「世界遺産に鎌倉を」「みんなで考える世界遺産おすすめルート」「どう守る私たちの世界遺産」「鎌倉の世界遺産登録へのまなざし」「住んでよく、訪れてよい鎌倉のまちづくり」などのテーマで催されてきました。それらを受けて今回の「鎌倉の趣と理」に関する話し合いが開かれました。

第１回のワークショップでは、鎌倉に関する感覚や意見がさまざまに語られ、その後に向けての蓄えが得られました。第２回には、皆が抱く周囲の自然への思いの深さがはっきりしました。第3回は、町の文化資産を守るための学びや近隣の大切さが指摘されました。第4回の頃には行政側の目も丘陵部に注がれるようになり、市民の目線と合致してきました。第5回は「まちづくり」がテーマとなって、交通・情報・まちの姿などに関し、話が活発に進みました。

今回の意見シート

ここでは、A「山・海とまち」、B「観光と住生活」、C「文化都市をめざす」の3テーマが設定され、5つのテーブルで話し合いが展開されました。それぞれのテーブルで作られた意見シートの中には、次のような書き込みが見られました。

「街と緑の調和/それぞれの家の手入れ」「植物にとって良いまち/在来種を考える」「緑を守るために団体を繋ぐ」「観光資源多い/鎌倉らしさ」「新しいものと古いものが混在」「山・海はパッケージ/中世から変らない」「何が本物か/海・山・積み重なってきた歴史」「まち・世界遺産、住んで居続ける」「思い切った提案が必要」「観光の基本は歩いて」「鎌倉へ若い人が増えている」「観光会社へのアピール」「昼は賑やか、夜は静か」「車の入場制限」「各地区でタウンミーティング」「宿泊施設を増やす」「鎌倉に住むプライド、余裕」「歴史文化都市と経済都市が融合する鎌倉市、独自に考える必要」「武家の古都に限らず多重な文化価値・その魅力を認識する」「先を考え、次世代に定着する仕掛けづくり、可能なのは余裕がある人、若い人。空き家に若い世代に入ってもらう」「文学・民俗・・・分断され総合的になっていない」など。

会場風景

今回のワークショップへの評価

このワークショップでは、これからの鎌倉の方向性がうかがえる考え方が出ることが期待されたといえます。鎌倉での催しは、参加者の平均年齢が高くなってしまうので、テーブル進行役には若い陣容を揃え、アドヴァイザーも木下・赤川両先生という気鋭の方たちが登場しました。

アドヴァイザーの先生たちも加わった熱い話し合いは、これまで同様に時間不足気味に終わり、消化不良と感じた参加者もいたかもしれません。

ソフトな手法で歴史の町を生かして鎌倉のあり方のヒントになると感じられた意見の一つに「各地区でタウンミーティング」がありましたが、そういうところから、地区ごとのまちの姿が見えてくるであろうと感じられました。

赤川先生は、一連のワークショップが鎌倉に社会資本をもたらしただろうと話されていました。

A、Bの４テーブル、文化を論じたCテーブルの話し合いからは、数々の貴重な示唆が得られました。文化資源学の木下教授のコメントも新鮮でした。すでに各テーブルの議論の様子が読める報告書も発行されているので、興味のある方は取り寄せてご覧ください。